神代紀
卷十四

中村俊定文庫
文庫 18
1018
8

雑中物

第十三 因縁

ひるめのうた

いそのうみ
をちのえれ物へらひ
きしこ
みちしの月
にかれうきす
あまをきをつめ
なわしの月

さいちう
あらはなる人
おもふをつか
あはす
ひかれこゝろ
あはす
ちひろのこゝて
ちあまこゝも

宮内省図書寮

中村俊定文庫

神中物第十三

ひるめ氏うた

いろとりわけ紀ものくらあるてるや
ひるめ乃ろこ城ものくらめすく

顕昭云　元八神系乃ひるめの命ハ今の
神系の高丘宮のひるめ乃命ハ

そのかみひ乃ろとつよ海らあく
ものくらあるへよそ海りこん
ひかをとうけるも　又神系譜乃系ハ
いたこあろ海をけふんあそひころ

さいはひや祈りへまんさを海さのうへは
ゆきてはひるあの神といふて称と紙乃須の方
なもれ真元あるひこい勢目ゆ武本ゆい弟
まひとあわ天照目とられやまひこを
わきひとて天ふる事ゆひるあの神を
見神るわ天照大神をて大日霊貴(ヨミヒルメノムチ)とも
なわ神系ゆいあるてるれりん神をれて
あくまつまて神拳とくあ家とくまつ
義方のもあわ神をいふ称ふ見ふ紙しく
う志はゆてまひるへ志わとふなわ

あ神ゆ志ひるめれ方の八大霊尊(タイジンソエ)舎に系ひるとく
ふるる方のくめいふ称ひるゆ志乃方り
よありと云ゆ
私云大霊尊(タイジンソエ)舎と云ゆい稲春方とくゆ八ゆ
ふ称ふくとくふ方ありる神をいふ
さるゆ別ふ称ひるる方をひるあの方と
いふあくゆふきまく須古をぬきかの方と
て別ふる見ん事神をを系をきまく方
万葉ゆ危檜隈檜隈河ゆふこをとあく
志ゆ方へ乱とくひうん又危檜の然

檜隈川ともよめり

さいもりの

さいもりのあるうらをいそめんあまつまて

うつろひうつろひぬくそめあまて

顕昭云あ[illegible]の[illegible]張[illegible]大[illegible]

あつきいもりうつ[illegible]

[illegible]

ちいさくあつ[illegible]

まつ[illegible]

いつ[illegible]ひのもりわつらわきあり

はさうつ[illegible]

ひとつ万葉のこ野陽人[illegible]考日本紀云

婆利我国[illegible]本[illegible]

故云[illegible]

万葉云

[illegible]

[illegible]

ひこ二首同[illegible]

いそ乃[illegible]

いそのうち[illegible]

みとしあひしてとはりもしあはしやと
額賀云いろのうつくしきあまりとしたくしてるとしたる和
あまよ存ととりつかあまよ布留乃社と云神をつけ
もよりわくいたのうつくしきふるとしたくしてるまり
やうくをあかるとしたるあまの山ふるとしたる
あるとしてあるともむかしあまの河をとしたくしよ布
をあるとしてあるとしたくあまてらすかみとしてあまの劔の
あるれき宇多の河はあまをみかきりや
ふくきくしよこの布よまつりてくるとしま
つまよくわるそのあまをとりてくるは社よいとふとり

とりてくあまの布よとしあまをとしたくあまや
とそうきとあまとりて直ふるとしたくあまの
神代紀あまの社とかやとしたくあまの社と云
社とのうつくしきあまとしたくあまの神代紀
あまの尾しあるあまの社とあまあまとしたくあまの
とりいとのとしたくあまとしたくあまの百姓云
いとのうつくしあまとしたくあまよさとりめや
まとんとしたくあまのとしたくあまのを
みいとのうつくしあまをとしたくあまとしあり
いとのうつくしあまとしたくあまとしたくあまとしたく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石上宮麿（いそのかみのみや）

石上宮麿（いそのかみのみや）といふ人は、文徳天皇の御代に、石上宮麿といふ人ありけり。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を略してわのへとつかうまつりをいたしつかはす
乃事とて殿をはじめたてまつりあつたり
催馬楽（サイバラ）歌（うた）吾家（わがいへ）とうかをたまはりんとて
いつきたてまつる云
わがいへとうかは
おほきさきさまをむとしてせんとさるのふ
このとうかをいはるゆめとつへむとしてうかを
うらうんときこうきいりあうてもうこ歌（きんり）
まもせんのいとうこそいやさあとーあい
せーうへ資（スケ）賞（カタ）つまもむ千秋とやさわ

歌人（かじん）のうんとこそいはあとく連歌（れんが）よさろ
いてはうまつりあるもうあるもとうあるもとうあるもとそ
うちわーうわーう
さうんのえのはつてうひ
さうんのえの小集（おつしう）楽（らく）うたてうまつる
をのうめすうちをかうたとうんえん
顕昭云をへうとうあるものいくあるもう
てあるうちをうとうて俗語のうとうあるよ
てをへうとうひとうのうくあるうとありむう
あるーかうとうはあるこのあうとうはうあるう

作者不人乃為こいそくあそひ所あそ
いとしるかしらあり春風そ吹くめくたり
はるかをそ人のあり所をそうめるそらん
考方業者鄙人姓名未詳也于時郷里
乃男女衆集野趣豊富集之中有鄙人
夫婦容姿端正秀ぬ衆法乃彼鄙人之意
所場愛素之情而作歌賛嘆美良也
私云世俗乃習ひ物をかめくゆくしをるを
かくしひらかとやいこのあそひをつくり
あかくそくわらや

かくれ所をとはか
そくれ乃花かくれ所をこの
花をそくしかしらあり春乃の花
題脇云おくれ所ひとの落乃梅をそうあ
ふ方業ヶ所乃春乃夫程る落
を作り
そくしらのいろ暗乃落乃おくれ
いたくいとしらあり色梅ヶせん
色いあるうよそ春ヶ作りそくれ
あ業とよむいあ業ひとくそ春ひとる

をしなべてこれをもてあそぶ乃ち秋の花
をかしきこと文選書に蘆菖蒲葉とかきて
あしのおちこちとかとあり第四
ちとせをかけて菊の花たちまち萎れ野草秋草のと
いとうんぬよりいらんとしてかつむ毎て　万葉集
秋野の花
萩乃暗小路を露をはらはらく
うさかきてまてきまれたる
前乃萩の花おもしろとふ乃ふる所
はせ花とも所ちらはやも清り

八重の籬よりこぼれ落ちて秋ちとに
さうん花をたちつ志乃ちん
久吉今まいちくさとめり
秋乃暗のおもしろ前の里時花乃
ちくさにものを相とふ時の郎
色ふかちあ毋りよ相乃月志乃乃影よハ
萩薄（ハキスキ）夢を（ユメヲ）如ふ郎（ヲミナヘシ）萩（ハギ）苅（カル）萱（カヤ）をとめり郎（ヲトコ）
ふの合ーよハ郎ふ前十香（ヒトカ）紫（シ）苑（オン）躑躅（ツツジ）麦（ムギ）とそ
毋ちくよあり久万葉よ前のやちちさ武ふ
乃清ゆるくよ家物りうめり

秋乃霞に山ぶきそめゆるあらの野乃
神ぬさをとるかの岩ぬまのひさよ
おもしろ神ぬさとてしらるる野乃
ゆくをとるこの人しの指ぬく岩のもろさ
なりの又野騰（ふ）えやうらき指授（キヤウ）ありのひぶき
神ぬくいくらく紙よりあり
まきこ
ちひらふまきこあるきそあるひさの
山乃ひあるこ家ふやうあるぬ
歌謡云まきこと指をらふまきとも云

万葉集ぬ南乃字を書くまきこいふ須ぬ
ぬるるら南ぬこの須をそまきてあるも
ぬあるこの須を略していふなる人しの
ぬ南字をそひぬこのき所ぬこのあいろ
をそ海ぬこ云ぬあ海へられあるまきこハ
小島乃名ぬ海ぬうくにまきらいうとも
人もありぬこの名ぬ兄弟法皇西河り法
皇ぬ孫ぬひぬ所日指叫（さゝ）渡（ミ）ぬ云ぬを鄭
恒ぬ孫ぬるぬ吳名ぬ名ぬ人ぬ求いろ
ぬふ日吉社ぬいぬるのこぬをいふ求ぬ

い、連房ついそのあらさいそれ言葉と
俊頼髄脳云
たちのこゑともかちくこゑ所
はるまはをしまひさあてくとや
あしたく
るふもかこうるとはむあしたくの
ひとくもきみよ秋やあてうる
顕昭云あしたくとん蘆管こ竹のはくの
こゑあたれてひこの考故孫純むいひく
うもきみすあり奥義抄云あしつく

きあしのよの中ようすやうこの屋うあく
ある猶なりうこうすさをのるりこれた
はしたく汁のあてても部ふのるとと
ふあるあ秋云そのうく竹ものあり竹
帛このひくむくそ秋をとりあめく
あんをるきさくわうの島の字をこあと
よあわしたくとのふあさやうまひとうふ
俳書ては付くめひこた
みこうり門
あをしとこてくはよせこそき

神さうけ[illegible]

題姫云[illegible]

[illegible]川を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のこるりくぐはてこも墨とつてつよいろ
はくりわてくりわそうどるわたりくぐはこやもちこ
とるる紀女とものの[illegible]りたれも回りう
せんとくこうのはてこのわるゑていこうを
ゑきさのくあるとさうくくあつまりくいまり
けまてここのはてこまけくれくよくうゑはり
ゑまれた女

あまこのくりあまれいくよの宿られや
ゑくくんんゆんゑはうまもせあ
とうひゑまれた

むくうわひあまこう宿乃とひうきハ
るまうよわしのとうく成ゑう
とくうんうくくありくゑ
れこのはきてよ女とのりひうちんとうひ
くゑはて男九回はくりの方とはよあるうり
ゑりかうせんの回よりはゑ何しよ回はく
らんといふ魚さあと人魚回をうこいそ
わりかえうひよ女とのきうるまれも
ゆさくの回るまくたうくくらむといんて
めれりかひうひよ女くものくへくときう

いうきいうこのくにとれるあたらふゆ米
あひるの海とうみのうちにいさ船れやもさ
るみち船と人まれ風うあり幸はやるみを
いかりうしおれうみ称しやうてあ〜さ海まなな
里ゆくあもたあたれあらもとうあはもうわ
須しさをろうこ海〜こそ〜ぬ須はつうう
ぬ須ろう

たかう〜ぬ須はめ

あう〜〜き年はたうあはうあう〜こそ
ちうさをはうひうくうこうぬ須はめ

日本紀よりはうへまつうめうろうはよりまてよ
顕昭云古今序はたかの石はの神
よりはうるはひうのうとくいまてわたのうきを
つめうとい年始よりいもうへうんぬ
考漢日本紀云天平十四年正月十六日天
皇詔水安殿宴群臣酒酣奏五位已上雅
琴更令小童安倍子又賜宴天下有位
人并法師史生已下人水勢聚
云云

あう〜〜き年はたうあはうあう〜こそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やとうと同意なれとも考万
葉或は奇日
とてもやもまもりまもるんむるをの
志井のさえうこれとうきさくとも
はまてもこうてとうの同心殺也
なりわこれ
をうりあつよ無ふのわせんと月まてし
志やもうみひあいさいこうれとる
顕昭云なりわこれ贄田澤とうきり但考日
は紀り贄田澤ひ云你(ニキ)拓(タク)絶田(タク)澤ん万葉よ

てもはさこれと下贄元るわ万代作与よ
ある和こいさいは紀るあ作(コキ)藝元業とうき
つまはけうあともよめわ同うし
文業田澤とうきわ文贄(ナリタツ)田澤をむすこれ
ともよめわ同んえ
志まこくも
物とふえよのあふこのうい志海とを
いとうあはまてくあまてれ　しめやま
顕昭云志海こくとい志てをくこ万須よ
くとうふえ文こをそうへこれ志まのいい志万

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ことくせりてとゝ稚のうめあらぬ作くもうこ
ゝ稚をもつゝ初をもうゝまみの
顕昭云作くもりんとうつを作くもとゝ云海藻
あわ江漏章とり章ちあくまとまとよめり
髮乃ちうこさよたとゝふ迦古池をとゝ初ひく
霧ゝうこうこさあわゝ稚をも作くもとゝ
ゝせとゝ稚をもうこさうりんのたとへよるゝ人
こゝを聊ゝをとゝせてよひとゝせあゝあゝをゝ
初ひうこんをゝとゝ稚をとゝふこうこふゝ
ゝ稚をゝとゝ稚よひとゝせあゝあゝとゝ水平

九といひくゝ百年に世あゝ所ゝ所ゝをあゝ守こ
奥義抄云あ稚をとゝ初ひうゝ女をあひゝ
ゝうゝよゝゝゝゆうゝわゝ年れを女
あひゝとゝ初をひゝ年ゝん初ゝこのいゝ
ゝ作ゝうゝくゝゝゝまゝん年所を初ゝこか
乃ゝふゝんゝうゝゝゝん所ゝゝゝゝゝせゝ
ひゝゝせゝあゝぬゝゝゝ水平ゝゝをゝゝうゝき
初源ようゝんうゝきのひゝゝゝわゝ所を初ゝ
ゝのあゝゝゝひくゝゝゝあゝゝゝんゝのゝゝ
ゝとゝいひゝ所よゝ水平九ゝゝとゝいひくゝゝの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

顕昭云 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

しきたりなれば紙とめくそのあこまろち
ぬくあとのひ久敷をこの女わきこわちく
あこ所よいとうのひ〻をおわ久れゆめこ
とおとこ〻こまふ所よあひ詠へおわかきよ
ちわ詠をんかとれまわこんといひくきま
をとこ〻こあ〻詠へといひくあひをときこくこと
物久わ所くくのあれ久わ久所あひをみとき
こわくこ〻こわ久梅こ紙ひさゆひくこ〻也て
いぬこのこいむつあ詠こわやあわ久んこの
男久ここのこ〻わ久所今るわ久れなあ〻きるわ

これこつふよるんあり久わこのをこのよいるひまこ
を相こひりこわ久るを七八年ありてみ相るあ〻
詠こひよこ〻詠こくやこへいくこ〻こ井る
乃こ〻わよ所こ〻わてこ詠こまへよ井るん
あわ久所あ詠よあこむあこもめ紙こ〻ふなく
こ〻ふ所う今巣よあひまこうふりあ所こ〻
いひこ〻まこハひこあのこ〻こ〻ひこ〻久世るわ久わと
いふあこ〻よあわ久所まやきあく不審乃雅
を見あくいあれこまこの詠乃あひよるなこわ面
後成ひこの云

ときうつ井ゐの乃下ゆひめてり
あゆをう行うさゐ河乃うゑ川
とよまれくるゐひたゐ物語乃ゐんとこゑてうさ
きとこの物語ちうきさうたまてしめてり
てあやうくるきさゐをさもありゐ奥さ事ゐれ
たゐひゐゐうよゐんゐうくうやゐ河
乃ゆくゐるもいくくきこゑ井ての川な
ゐんとくゐん井ゐのゐゆとよゐうゐたとくり
ゐうをくくゐるくゐゆくくきこゑ
とくへなゐゐの

いそくゐかたかこうゐなうゐへことくけり
うくゐ奥ゐゐくとゐくくゐをくけ
題賜云伊勢物語云昔男流ゐくゐきこと
ゐみこおりくくゐのみこうせゐひく
ゆくくゐのようゐ乃ゆをくゐくゐを
ゐくひうくうゐくいてくまくくてやう
くゐひまゐゐひくゐゐむくひよゆとこ車くて
ゐくゐ物を源乃いくくくくゐあれたくれ
くこのくくゐゐくわひ車ををんゐひとゐ
くゐまゐとゆくくひくくくゐ海ゐくゐひく

よこのいろう賞をとりてこの車はいれうり
ろれきこの車をうる人このりうをとり寸火
まやふてうむとおうひくきてうんとん
とくいてくいるとてとくとてせろこ
のいろうあれきこのうこれをみくいあり
ろ穂とこのをえんよ海こわけまて寿白ろく
をあり ろ所
いとあう穂ろくぐきこゆううり火乃
ゆく強こうもうれてきあこ歩
とるんりへこうろ所ろわいろこのこれ言ふく

いなをうこにそあり ろ所このいろい順ろれ
わうりへ
今桑云いてくいあもう形りあろ人こうここもひ
みこのあうくうふう穂毎りんをうこうあり
ふりけういあうろ乃ひうろ紙こもひおりんを
うりの火よう毎ろくくうあうこうろ人へうあうと
いふ河いあう強へよう或むりいうう毎あ毎ろ
ろうこ書りうせ形ひあうまと紙年毎あ中と
よりうこ或むよいうあうあねとてもうこ書り
あ穂ろいいう穂あり

奥義抄云むかしあるこゝろやりなれぬせ法師
なりけるあるこゝろてまつるよ和尚車よ源むら
雲をとりてゆきこゝろりなを車なりくる
人このうらはらすまやあんらりけり
るんとめるまくよめるりかるさ海
ものよるのてあ和尚くいるてくきりな
海角ゝとうふしとゝゝきらいは法よ如湖
畫燈滅とゝ文や仏乃滅法をゝゝとよ
よせくゝ人ゝ和尚ゝもゝうゝ史のきゝ
海よゝくゝ人ゝくかくゝあるとゝゝへるあゝく

いふとゝゝきゝへとあるりあるうゝ和尚法きき
あるるあるあるるりへゝとゝいるゝとゝ和尚し
和尚ゝゝへるるあるの釈ゝゝいるゝゝみゝも
ゝゝるゝゝゝこゝしゝんゝるれゝゝりけり
ゝゝゝゝ法乃みよゝせ仏ん滅ゝ法ゝて
ゝ和尚ゝひゝゝゝゝゝゝや
あゝ法ゝゝあゝり
あゝこのゝ見ゆゝあゝゝゝわゝゝるけし
んゝゝ見ゝにいゝゝへ和尚ゝり西
顕昭云あゝ法ゝゝあゝよゝゝあゝゝんゝ書

慕ふ奴はたゝ
ちたちよ称あるきけちらせとあ
んもちあるよるくふるうたん
うめのもれうくられこゝ紙宮もも
んもちあるりもておもふ
ゆふたくよあるもあるよ白髪乃
そくこのよりわくあなく
百葉ちいんもちあるよとあるかんかうあと
いふく武人云ちあるよちあるくいつるや
あるるもちくふたちうあるとう

いひくちあるきあるるれたちあるよいるとい
くみちかまくふうんん紙るちのふ不要ん文ん
もちあるくゆもたちあるといふす
もおかうう
くくくくくくいちくうくくて
むりん人も之奴はきうゆれ
あさ宮りひやうちあるたなくうもの
ちあるひたくありとはまんこもくも
あるひさの山ちくこひうけうくん
うんやはくよむあ紙くあるん

志乃よおしまの月
あさのの紙之ぬかり押麻(ヲミ)とく夏の
さまうもちるみまもしまひ行くあらしを
題歌云志乃よ初しまの月とい志けくれ
なひとそとく同上こうゆきふる雪の
初月乃よ撰(ヨタ)とくきさ乃をくしまの月こく
志乃ふくいそねとあくをくらり積(つも)る
とう宿の初月をまとく春よ
てふまとりもこちらまくもこうん
いるこちらくあくらとるみさねのちわ

けふくあまきこいへまくのふる
めひ乃くのとくきわるへみる雪よ
やとふくうつくおもうゆ
わすへいをくまのこゆいをりるゆ
志ふくよあう
わさ雪ふまふくふまくこと
こふゆ山ちわるれたくこゆ
題歌云志ふくよあまくといぬくとまくく
志とくよぬまくとまうみ志ふくよあま
てとくよあわ

万葉集の云

[illegible]

小竹葉に[illegible]

[illegible]

[illegible]

題昭云[illegible]

とうきわ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろこのもとれむ薄荷食

顕昭云あまりもかりくさにたるものか

しらくさ文字はあまとけ河しの穂り

ちくさつつ蓮を苅數とうつふ人を

み食とうきこの穂をあつりもくとうふと花

めく人の穂とのふかとれもくこの河

を食とこたる飯なら食とうふよ付くら

もむともよあらふを穂を數をめ食よ

もあらくこもくへうこあとも

俗とれをこの海へよむとそく

むひろいくく法師ちまひ

むをひろいくくよあひひろいくふあら

をこあひろいくとこし

をなやをれをすこなるふ法む

いをちをひまくくこをも

あ穂もんくとくへるや

をくあたら

をくあたるおまくよくなをふ稱名

きくけふるれやくなるも形

敬昭云大和物語云むくく法乃をあくもむ

あわうちをはちまきをよりつかまつりまいらせ候
一人さうの田乃国りとむかまつり雄六蔵系
まるんあわうをまうる今一人を和泉乃国れん人を
うわ雄ちらねとうんいひうかがうこの相さ
とも年よりひうかがうち人をんれてく国
雄なちわんさうのまうんをとてあわうめ
とをふよ志乃雄も国雄こうれをうれ
ふきあひあ雄ちをこも国雄よをこうい内
き海されわとういつへうをあうん女和りひうう
らひくひ人志乃をうっ雄ちをいつまもく

あうまりけまをこうを雄ちをかまをも月日紙雄こ
いをう乃門よりあうちく志をみし作ちるきうふ
雄をうすまをこうを雄も国屋りまを
こうを作をれうをもいまねこうれうわ
も人よもををくあくたうわわあわくいと
こうをうりかくあつきを雄こ人をれるけ
こうををいうをうをよりをくくし一人へく
よあひあいをもあえうんうふうきこを女
んりをさるん和りをを人をんをこ北国雄
なうをよるんこうをひあうを作ちいりくこを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つもくさうきの乃ゝまろかたにこのようひゝ
ゆゝしわ屋ゝくあるの一ゝ丁よ為いわゆ一ゝ
ゝきあゝをゝらゝへゝ人ゝゝ成ゝてゝゝく
ゝゝよゝくゝわゝゝのゝゝゝ形やゝゝゝゝゝさゝて
れゝあゝゝゝゝゝる形乃ゝゝゝゝゝゝゝゝあゝたゝこ
ゝゝも乃ゝゝやゝゝゝきゝふゝゝゝゝゝゝゝ女の作ゝのゝこ
ゝゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝ

伊勢のくにやとこころ
ゆくすゑのこゝろぼそさあくがれ
こゝろ海るかたくいりひがうまくろり
私云ハ下ノ句ハ略之
さてこのたてこもりくまこゝろけのよるのうきさ
をこゝろもくくうるまきあもろ海ものり物ひとり
いまくらうやあくく弁ごちあとくこゝあるん
うつくゝ所をいかゝ人をろり物ろ物やあり
くんさもせくくあわくゝ所ろのこゝろのこゝろの名をい
こゝとあこゝとるんいひくゝよ人ものいさくひ

こゝ所をこゝとのこゝけまこゝあやしこゝとねこゝひく
こゝせくゝ物こゝさくこゝ事もこゝこゝいこゝこゝあやく
と思く物ものこゝふわくあるふちよまこゝみまこゝろ物こゝ
こまくよこゝくひさこゝ所こゝくこゝのまこゝくこゝきよ
せあこゝ物こゝくひしくこゝこゝ物こゝこゝこゝ
物ひこゝ物こゝきこゝのよむこゝあこゝこゝくんこゝ云
物こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ所わ所せあこゝく
ゆあこゝあこゝくんこゝ物こゝこゝこゝいあこゝこゝ
せこゝ所こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝいこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

おとこさくいんつうろひくはとくう
とうてう弱ていさきのうちこうてうて又
ゆかりわいのう業おかむまのわにくたん
まつふるをさとくもめうわかうむく同巻
しとおうへとめつうきこうれたとひきく
かとよ和をあけよくれたはのうへうちを
もるう和うわうあうもつうるんあり
くはいとうとゆくきこのを和とん
乃いまくはとうん考万葉長方の詞云
あうきうふまうにせんとうはさうよかうるう

つんと慶女墓あうよはうわをくねとこはうこ
あうかうこうはうわとをうわとうく
万葉九過ル葉原廣女墓時　宋丸集云
いうへゆかうたねのこれまうひして
菟原おとあれ鳥影ろあま
あ乃屋のうへひわとあれ奥像を
ゆさんとんくいるきのうこうたく
はうのうへかいこのうえうひうわきくうこと
漢勢蛍ふうるうへ家ろうこうん
今業よ女墓とへ万葉まへねとあつねとこ

乃ぶうの和とこぶうるわ俊彩ないの物語ゝり
よ物わ和とあとも和とあとも元をとあと同
ひゝきるわ人さうこうの和とこうゝゝ和とこう
るひ和とこい同ぶ乃ゝふの和とこの名ゝゝ
この和とこいちあ和とこしうるひ和とあ
うゝゝをとあゝゝやのをとあ一人ゝをを

神中物

第十四員縁

あへあゝ元
をゝわれあこのあゝ
とふあとゝこも
ぶうまとさてふきわゝ
ちゝこのたゝ
あゝひとゝみ

をゝ物ものゝき
あゝ物ゝ元ひゝれゝ
をゝのゝ物のきゝゝ雪
ぶうゝ物ゝ乃山
ゝ屋ゝ
ゆゝのたゝ

神中物第十四

あへあらの花

ようきこふおりてひさるく馬ゝ下れ

あへあらもふれもらもとの冬ふりとの河へ信橘と

弘昭云あへあらもとの冬ふりとの河へ信橘と

出わたまるに尓雅云橙和名安信太知波奈倣

柚而小者也

柚ハ似橙而酸江南人或醫師申侍橙ハ

宅耕又タウトヨム訓おゝたちばなし橘皮ニハ

不用也ゆゑん橘をらんとく橙を取と云ハ

をゝなるものゝ事をあつとあはと祝ス

をゝなる海乃ゝき

をゝなるはなれすきのひもとをとくれと

あまくゝ物をせあこゝみひとわたり

顕昭云をゝなるはなれすきとゝ小車をとりつくく

まくるゝゝをゝなるゝ綿なわ伊勢太神宮の

はなゝ衣まいは綿をまもちゝゝとゝりをとるまを

いゝ小車たゝり紡をゝ和歌物ゝゝゝ男のゝゝりゝ所

車ゝゝゝゝりたゝゝゝ形ゝゝゝすみゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひ義不可用

をゝるまものまひくゝゝゝゝひの紡せゝゝを

綿ひゝひとをとゝんゝゝを形をゝふ

帝王紀物云をゝゝゝ毎ゝゝひとをとゝんゝゝき

こゝゝも長ゝゝゝゝゝゝれゝも毎ゝゝん

をゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なにはづのあさえのあし
をつくりたるえのあし
をぬきしたるさ
むきのつくるれんぬのも
のを云なり
鼠服云をつくりとかの蓋を云なり
秋もみぢもちかよむりつくらぬびきの源重之
り一百そこの云　文ちわのあさのふうえもれ
ふをまりむきのしらわいそらやめるらん
ひかふくわりひわいをかの文あをるちら
わとんをいむきのるとあれも文萩
をかりらふうえのう秋よるあれも今い秋り

なわく文むきのしらあいをいをあそまちら
むとよあわそらよあるらんとんむまあ
はをあらあるんとあのの文り
よあり秋きの文い秋よあり唐い胡麻へり
あうをのあく小へゆうとこゆうよはあれ
小忠紙中郷なとよあうく文いも稲
わうあうしてあ　わさの中ものうとも
せいうのんくひの二首をいよあうとんえ
ら秋くうわをあえとい郷れりあれもう
のんをるひうり俳万葉集云

乃ゝまの江乃ゑとゝ紙ゑあゝゝわ

とそ祈りふ

ものゝ

いまゝゝ孫とゝ所あふ付ゝ祈りへゝたゝえゝを

刈不まゝあゝゝゝいゝ行まゝの江をゝもゝめゝくゝふ

ゝゝ人ゝゝゝ所たゝゝゝ初乃わをゝのゝゝゝ所ゝゝれ

ゝ所ゝゝ聖ゝゝゝ行ゝくゝもゝあゝわゝきゝ川乃ゝを蜂の

ゝゝものゝ野あゝ屋ゝを所ゝゝ屋ゝもゝゝ所ゝれゝまゝくゝゝを

流ゝけゝくゝたゝゝそ流ゝめゝゝゝれゝゝむゝゝあゝまゝこゝの流乃ゝ

ゝゝ所ゝゝゝ

和云はるよ付くとて廣えの玉梓とつかふ
えあさくらあれ廣えとそいたりあたり
えのあれと清くあさ色くさ見ぬくも刈よ
てもゐ沼のあれといたんよぬちあるまえ
うつくしあれうつよくりむまあるとふ
といくくとさこゆうわくぬんあれとそ
あへてそくくれはよはくさ色くう
あ兵衛うくあはあとふこまつまとくう
神くあれ神くあれふこえるれてうくも
色くあ清神くあくあくしくし　元水あ水

いくるを田ふのる絶あまこてそれりやうにあ
和さのくうくあくあとふい沼くも清まも沼う
も清まもしまあくも
富士嶽物云歌前の乃あまは白い潮と紙くひく
くふくあくん聟初ひく廉を待初く
しくくう人尹ふんくくよくくくむまる
毎くわんんあくるくくとふ形く
綺清物云毎くくとふえくくとふをを云たま
えを歌前よあくくの西めくかくしく
毎くえのかくにわくあくさけのくう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

といそんもこの形〜山橘とのひく歌よ紀とも
よみ物こんといひそもひとも歌よ花とよまんの
おそ〜いふみも物ふるもあるも初白といんうへ
こんに奥義物のんあ物こをいる奇こ物こ
別よこす
あすれおいこきひふのこれ
ひこやひふのこ物よ物こんこく
あすのあまこれいこわをんこは
題昭云ゆまのあいこれこあすの縄ひこと
いふことこありこあくふのいこるや

日本紀にも万葉集にも榜縄とこりあまて
ゆすのあいこあのこりこ紀こ本もありそ物こた
くるこ河を明〜こ河しきこくこ自ふこるる
まてたりすさ物こ田舎人云河ふこのこく
まこいふあいこけこ日源こそ出ゆ〜四条大
納云問答云物紙こ世の人三の海義こりこ源
うれふこもひあを歌こ河のいくこるる
あこ紙ここふもるこ乃河しこ
ひあこひここ河ここりこ丸翁や
こいわ又私云苔こ麻乃投をいこそこるも

あらるとてふいひくんしびかめくいあものうく
あらといはくいさわせんとハとも云詞ハ法きあ
ゝ称ものあるハ[illegible]とうけうるしひ
河をんさう人を海人ゝ縄あ[illegible]とハ縄を
燒ていさわ火より寄とふ[illegible]り燒すし
いさわ火ゝるとハよい本成ゝそうけをかう松し
かゝて此まゝ河ゝいさわとハ奥とゝをゝ
火をゝゝて奥を焼ゝ[illegible]ハるいゝ法
とゝハ法りあとゝんう魚きし[illegible]ゝ云
いせの海あ[illegible]ゝあるうちゝゝく

[illegible]ゝの[illegible]やゝひまゝゝ歌
ひゝあ[illegible]ゝあゝゝゝ云ゝ[illegible]
ゝ称ゝあゝゝひくゝあゝく法わなゝ
ふゝあゝゝ
[illegible]名称云ひふいあゝゝゝあ[illegible]
ゝゝハあ[illegible]ゝひゝゝゝ掲ゝ
ゝあゝゝん[illegible]ゝ法ゝあゝし
松云ひあゝハあゝゝふゝ掲あ[illegible]ゝさ
称ゝちゝきあゝゝふハゝあゝん日本紀
万葉集ゝゝ小夷ゝゝゝきゝひあゝゝ

[illegible]

[illegible]

いよゝあり今の[illegible]小姫[illegible]う[illegible]

[illegible]の漢朝乃[illegible]寒郷

よ[illegible]ゝ　み[illegible]

てひ[illegible]ひつ[illegible]万葉云

あ[illegible]ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]山上憶良

[illegible]日[illegible]漢[illegible]

[illegible]

[illegible]

使[illegible]

[illegible]

あ[illegible]ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]家[illegible]

[illegible]

通[illegible]

[illegible]

海とあるのうらに情別をわたる舟をも
ちかりおるひとのもとにわかれをこひつる
よもすがらのあるかたわらに大和なる山乃こゆ
をちかたさふらとあるとおもふくい日をも
をやまとあるとおもふこゝろわかれ別るゝ大和
おもをもむもあるうゝ　みこゝろ歌のあるれるあい
くの歌あるこゝろ所てこゝに対てこゝ歌と
旅あるあるれをむるとこゝろよりわく猶りこゝん
くるむもこゝろ物をこゝろわこゝろいこゝいこゝ富さ
ひ河をゆきせる旅こゝろ所こゝきこゝゆ

ひとのもとに旅をゆきあるこゝ旅をこゝ
あるこゝもとかいこゝ東へゆく別るゝ之日光花よ
華東とこゝ旅こゝやこゝひとあるこゝ
いふあるこゝ
童蒙抄云ひとの花をこゝ旅こゝ陽炎のこゝ
もとかりおるこゝ　乃こゝ物こゝ
又恒山乃四色こゝ旅こゝ鶏
別こゝいこゝあるいはまこゝこゝもこゝ所
あるこゝ旅こゝこゝのひとのこゝこゝ
み旅よあるこゝ乃こゝいこゝあるこゝをいこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我　小秋とかしこまるよあるものなれとも

きのくにのくにもとうしたけらん

れんぜいしまのうちに[illegible]ひとりてんさいと

今のあいだ紙さいのひをひるやいふんしと又は

[illegible]の名ひとい漢字乃事なるわたきて漢字名

東夷西戎南蠻北狄

太宰府より[illegible]さいくに大義の種[illegible]

[illegible]

[illegible]

こうみをたるまてくらふりとれ移ん
頭昭云くこのもろもろあるを十もくく
あくらゑもろくとゝ菅めくあくろくゝ
もろかさすくこのもろ庵くもろもろくあく
云くくゝ蕪いたれを蒻蒋めくあくられし
本ゝゝよくくりひくくゝゝくゝ蕪てあく
くもをゝもくくゝ菅にくあくくもを
もくくゝくゝくゝあくんくゝひくくん
釈しを釈を滸徐釈よいくゝあゝ見
くを紙いゝくゝゝみくくれくくを徐を

びひくをくくこの奥別よりあくりられを
人をたりゝゝくくを釈をいをを祢をくゝよい
ゝを釈祢んくゝのあくくれを帝を蒙物滸
釈物をくゝみくのくゝゝ郡くくゝあ
くくくこくりのくくくくくゝゝ家ゝくくゝ釈家
奥別の郡の中よりくくくゝの郡をくゝ
ゝ梅あくくくくを徐をんくゝのこくりよ
くをくゝあくくくこくくくくけゝを
蒙ゝし滸みくゝのこくりくゝあよ相くくこも
のくゝあくくゝゝ家くもいを釈家こものゝ

いつとなくあるひとさしくさうふあさたちそいて
ゆきれんとすあるもとをとそていふ毎はき
ゆきとゆといふいとゆきこのとゆ乃こりれとふ
あるこすの義さいあくふたりみとゆ
ひまんといあるもありるんとふ郡いまれ
あるゆとともやきさこるれとあこたこのむ
とりわるあれもみちのらゆふんをろこ
もとこのむりてみあるちよこのま神を
さあうゆのこいてこうあわもやてそれを
みちふくのとふをもろこもやしむるわ

後拾遺山部赤人
をもむここいくへうまけるとふの作りなるん
清らのことてもうゆ紙あうて為くこもうこ
あうあさ 神こりさともいふ
をろれを為のさあるあ
然昭云をろのを為のさとい家類云凌者歴
やこ郡を歴とい為るの管乃ふりおりふ
ふれみちを毎とりふをろのこちをこ神るんこ
古今云
おく山乃をろれ神去乃さふるあん

きのてらいちんこひんまんけさけり
万葉集いもとのたもとあるをこなたのをの
ありもるのふりくらんまいをもとうしらん
を盛おりのいもちの松とうまりひろくさえ又
をとと思と同ものするゆへ紅捨遺
おくゝ心乃ゆ紅ぬんをもとのさふる雪哉
いろとくゝ毎ゝとみしぬ思ふ郎
あまつもまれのをゆ紅ぬくゝ浦めるんを又万葉家云
こうえうてとまれりくゝ山ゝ思さ松を
このを思のさくゝ家ゝふひく

いをせ賢に秋をきさ思の義詞のめくく
まつとゝりくに世そのやゝ秋ん
思ゝをこひうゝ海きをれを思のさ賢れ
秋義思のさゝ紙しゝるくも
びぶんおるゝ家郎ヤクシ詞よ和侵壊と云又も
思乃くいをゝ乃事ときこゆ 史記云少ニ新
歓侵壊諸侯ヲ
淺雲思ぶのとと云もあをゝつさ雲を知りんも
奥義物と云思のくい侵しあゝもせめゝ義
ゝを思のくいゝ思ゝ

今宵くとこゝ事いとれ家波を志のさ霧を
志のくといふもみな波霧れ中をとく波るわ
くくとゝろの面ろの元れをけりのそきてくか
よわるをろくさ秋てうるゝた祖よ行ろとゝ
まるとゝゝみ字ゝ秋をり行くいそのゝ出家ゝる
ろの面をゝ秋ろをもいゝてろのんゝたるふま
しろゝ紙ゝくゝあをゆくといろんまゝりなゝ
角ろくん

波くまさ世てふきくわくと
秋ろせよゝろひぬゝ貴ろ海

波くまさ世てふきくわくあるくとゝ無俗
歌那ゝ波くまさ世てふきくわくあるくとゝ無俗
よゝろくく夢い波くまさ世かくいひろいもとゝく
とゝりくいとゝいきゝ布北屋まくゝのゝもを
角てまる紀をゝそ秋ゝいとゝゝ川波く家
よくゝりくゝ波てゝわくゝあれをつくきゝくいとゝ
うゝとゝふゝあゝ紙物よゝふゝきゝりゝ波ゝるゝ
そのゝそのゝそのゝくとゝいの屋ゝりよるひくゝ史を
波きくゝろのきゝ家をあくゝむゝをゝくゝいゝとと
くくゝゝ秋ろせのふくよ貴ろ海の

やうにひぬうにをかりやきあうんこ法ゐまた
おほやうに成きてうに和をとりあつめくさせいうの
黄そうに成や秋風よ成きあ〻舞法ゐもうい
ひろりむとさわくあのあくにとよあうこ法ゐを
さすようそのうこいの和りくいてうに成こみうきき
髓脳よきわくあのゑをいさせといふというり
うのゆつよさせといふきうくをとこいふをを
法ゐまさ勢とうのくうにあ〻さ成うさ秋いは枝
精進の序よ姫のむ〻ゑさせるふ〻なくとと
う神うにいきわくあをさせといつもう秋り

うくく法ゐをうにと通俊ゐの法ゐ〻うまし
作りはあ法ゐつまきよ法ゐくあ人へ〻とうるきうあ
加う〻世俗法ゐもとあわうみ通俊法ゐも
ふうく〻私あよ巻をさせといふとあうこの
法ゐまさせてふ巻(キルヤス)法ゐさせといふあうこにあう
あ成うみとのあもゐうまさせときわくをの
うけたうくうもうんりうけめさせといもん
ううよあうりよつうまとうふあきよあ〻ひ
通俊ゐいきわくあをさせとうこうるを書に
付うこうあう加うみ人へ〻家持集(ヤカモチ)云きわくあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀伊国名所山とは紀伊国にあり吉野川
を尋てゝいもの山せの山とゝふ川の山
あるべき事なりとゝせうとゝ河を尋てゝ中の
さゝひを海しゝくろ道よ妹(イモ)らくせの山成
ちゝく海ゝ吉野川とゝあるゝとゝろ枝
いりとせうとこの二ゝ山の中よ小山あり
それをいりせ山とゝ枝せの山ちゝ成やゝろ
初つゝゝ考万葉云
せの山よゝゝにむするいもの山
ことゆるもやとゝらられもゝゝ

あれやこの風さとあゝてゝ山もゝあるゝ
ゝちよあるゝゝ初つ勢の山
ゝ成ゝこよいゝゝひゆけもゝりゝゝを
ゝゝひゝゝゝ妹(モ)ふ勢(セ)ゝ山
ひゝのゝれんゝゝいもの山せの山別名
初ゝちゝんちゝゝく形ゝゝゝこの作ゝゝゝ河
いもせの山をゝゝれゝゝゝ
真義抄云ひゝの乃んゝ初とこ安乃ゝゝ
てゝきゝとゝゝゝゝきゝりとゝゝんをゝゝゝよ
めゝゝさてゝ初とこ安乃ゝゝひをゝゝく

いひしらぬ物思ふ袖乃ぬれてまこの名のと
いふ人くもゐ
彩云りとへいりてせうとふ法華くいもの山せの
山とくれ法華これとめ打とこをもりせとへ
もしかいりのまゐ法華くあ乃んよりあらん
毎こ毎こ法又万葉云
木道ゐこそ妹山ありとへ指と乃二上山も
妹こそまこけき 後拾遺云
もつきこきゐもせ乃山ん中まちく
毎こつ雨乃ぬれ乃ゐ乃ゐ

拾遺集云
もつまきこきゐもせ乃山とちら称ちや
こ川秋雲乃中を毎こつ
ちまこの乃ゐ
ゐひもひくゐつるあこれおあこ
ちまこれこそこるゐちれもし
然那云ちてこのむとこゐ乃ちこゐ寄ここん
むし物つこ分毎こひなこ
考日本紀云宣化天皇元年詔曰黄金万貫
正可療飢白玉千箱何能救冷（イヤス ウヘヲ ニヤウ キヲ）ひさ乃京

大文顕浦の合雅親卿の家の門基
俊判云右京の存古風を逸眞仏千もこの数
とゝろのこゝ物の歳の行ゝ物も云作ゝ称
ひこの乃おりゝ見作ゝ物知ゝ人思作ゝ
やあゝんとゝて見ゝ作ゝ宮ゝく千和い文乃
文ゝ作ゝ作ゝ人ゝ宮ゝいゝのゝこれゝとゝ乃ゝちゝえゝ物ゝ
あゝゝとゝあゝゝゝ

めうとの事ハ日本紀ニハ物人玉ニ手箱をそえて
もつてこと事のおもむきを御使に申ス云
下考長文延喜式ニハ白玉手箱事ハ
をもて御前に渡ス若ハ事部思渡ス玉手
箱進上事もかくのごとくなるべしこのほうをも手
箱ともの取ものとけきと玉手をもてとうるなり有
渡ス
あまのつゝみをの
ふかつゝむもつゝ結ぶ
手のおのをさめらるゝともも

頭脳云たゝくとゝ
ハ御ハ御をもつゝと
真坂樹八十玉藏向曰玉藏者何物乎
是坂樹し玉ハ号書之名也周ニ坂樹刺之次
為神之本故謂之藏形之字葉云
おのゝあくりたゝりてきれるもつゝの
めうとゝ事をかるいりよあもんあれ
ハい御ハをかめくを玉の須をとへ毎ゝ前式
ゝを玉藏や別物ゝまされ毎けきハ注也
前方ハ後形勢辰新ハ周行ハ和具ゝ

伊勢小倉河六家源氏なり絃へ這ものを
かしまんとなるものは水を流しみこりつと
うも水の勢しに力なかるに小清水高き所に良還の
はもみなくなりてくく蟹乃もとへ名をきこきを
もらるなてのきさ面この優形(トシヨリ)の男なく
ものとよりなりさらきのまたしるとあるく高
絶て弱勢もしれいくもくるくさくるこうく
なるくるるくるくるくるくるくるくるくるくるも
こるくるくるくるくるくるくるくるくるくるも
くくるるもをもを次堀河院百首頭仲郎信方

はるてあるあくくあるよのあるまを行ものくくを絶をへ
平中間之方祈ものくよ賢木(サカキ)式帝にくくるの
あまてくもくくく

あてまつる事

をつてきもあらひとりみもあこむまて
ゐるこをかをわかんかりくきあり神
後胡根よ小野とせあくまつる事
おそひの法やたをたをつるをらきて
あるこをくもありくむりを
大宮の蓬を惡神天皇めくたをもんの野
天神を菅丞相めくおをもせたをあ
らひとかをとをを今あい住吉明神をを
あらひと神ををみてまつる

日本紀曰底筒男命中筒男命表筒男
命是則住吉大神矣註曰底乃大海神
古語謂海底古善事為底之墨江之
和大神是也向云上文底津中津水神名不
有底面今此底筒中筒表筒等之神名
若有而見乎答曰此等之神名有取由但先
師不傳今又顧之又問曰今如此文者此三大
神者當在海底矣猶之水戸而今在摂津国
墨江如何哉答曰此神蓋御竈者猶在海
底和竈猶居在海底云事記矣

案神功后宮記云

九年三月皇后親為神主祭之審神名曰
今不答而更後有言乎乃對曰敬白向西猶
小門之水底所居而水葉稚之山上所居神名表
翠稚〻言此神出玩葉盛出居〻之
筒男中筒男底筒男神之時得神語隨
教而奉之然則此神本在旋渦小戸阿神
功皇后初更居於摂津墨江耳
私云案云此方神代乃神名也有之時神
下略 万葉集長歌云住吉乃墨江神と
よみ侍り但今の歌よりてよまれ
ぬるなるべしつゝ記紀の所を指乎

又曰紀云現人之神有之如流神名
自稱之号也治乎在系勢長類同此事
可物不曾言也云墨江集備名曰也紀可備帝
之号 又云天神地祇有人神
曰鬼 隱者〻祇之鬼物隱
或鬼人死神魂也而不歓顯歌以稱之
私云放方東亮行事云住吉神是國基云住吉
本之社也中田社也澤明神即衣通姫之
後よいそ也後仍好和之語也
私云之社事右件日本紀又安倍之天〻〻
京孔衣通姫之后八也〻多〻委不記

奥義抄云わらへ神を地祇や神祇とも
て地祇をあらひと神とかつきらそと
今云ちはやぶる神代の日本紀に
天神地祇（キリ）を拳現人神（アラカミ）の現人神（アラカミ）を天よ
のわらへあ爲ちはやぶる
ゆとのたゆと
そとは神を人おとらあを相見ふるもん
ゆとのたゆとうの神ちふうを
影堀云神とのゆとと新乃ゆとに神ちう
きとゆとひうゆとふんと但法名と澄瑜ま

歌しは神きこ人あよつる水ちを湯と云ふ湯を
なちうのゆをとくとをつるとゆとくとをそれ
うくゆとをゆとと爲けまをたあ乃ゆち
相ちうんと神ゆくてうゆとと云んと爲方
ちをあ云ちうあうの湯（ゆたなたなたな

てはあるべきことなり
和云清物乃湯乃焼すなり隆陽ヵ業なりたるべす
或の作なれ但古今に所はたる称号ゆゑの事
ふとあまてそこそふかゆくゑたゆしともも
いそあひ万葉うきあるあいの事は清さくい
ひくゑくるくるゆゑ万葉りうきあるる
つふひ朝をようこうまきふるもうきあるあし
もなるよゆゑひんとこそきゆこと
神人今ゆゑのことゆゑとわ神と湯くゑ
のうのきるすゑくひうきあるあいの事い

ゆゑよたゆこはこそれとうくゆくゑ
まいひまゑくるまくまあまこの事と
見くもうこひあるすゑきこ事は清ゆくも
いそ神うる事あまとうなおきのいてるこ
奥義抄云ゆこの事とは波ようきくとく
ゆくはうきこくとく掛をふんこ万葉
まい猶豫ヵ云てこゆゑひとこありあれも掛
をこひさこあいるるみ掛こいひくと
ちんこ寛の字をとはゆことよむひくと
よむここ不耳ん但古能多別呂云云

[illegible]
ひとつ紙しぬ[illegible]
是をひろさ義よりのひくさこゝろ自案
をひろさんみし[illegible]
[illegible]
[illegible]
ゆくふんし私云
[illegible]
[illegible]
うふをちのみしよのわくやろ意をん

[illegible]
今あるよまとしたゆをとゝいふるうをさろ
んもひろさんもこれ[illegible]但ろうるんの
ゆうやを[illegible]をうてゆうもふをこめぬん
ときこゆろふのゆうよあるうんとゝ
[illegible]ろをわゆゝを[illegible]ん
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]